



2024年12月10日
第95号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第4号

「南武線ワンマン運転について」に関する解明申し入れ 【全25項目】団体交渉を行う！③

2項「安全面が低下しない根拠を明らかにすること。具体的には、後方防護のあり方、車内秩序維持および車内トラブル、パンタグラフ確認方法、踏切遮断棒確認方法などを明らかにすること。」の続き

組 合	会 社
☆急病人救護や車内トラブル等、対応終了後の駅社員による運転再開指示の方法について	
駅停車中に急病人救護や車内トラブル等、対応終了して運転再開する時は駅社員から運転再開指示を出す場合もあるが、駅社員からの運転再開指示はどのように行う考えなのか。今までは、車掌に対して運転再開指示が出されていたが、ワンマン運転になっていく中で駅社員からの運転再開指示をどのように行っていくのか示すこと。	状況に応じて様々あると思うが、対応終了して対面で伝える場合もある。車掌がいる時は、ワイヤレスマイクで伝える場合もあれば、対面で話す場合もある。今度は相手が車掌から運転士に変わり、 運転士が運転台にいるということであれば、駅社員が運転士の所に行って意思疎通ができなければならない。 様々な状況があると思うが、 運転士と駅がきちんと意思疎通をとれるところで進んでいく。
これから、バディコムをどのように活用していくのか。バディコムを使用する考えはあるのか。	トライアルでバディコムを使用しているが、 現段階は大きな変化点ということでは運転士はワンマン運転に慣れなければいけない。 「あれもこれも」とならないように使用用途を決めて、 慣れてきた段階で今後の使い方については相談しながら、可能性があれば別の使用方法を考えていく。
現行のバディコムの使用用途というのは、車椅子対応と車内点検時のみの使用ということでしょうか。	トライアルの中では使用用途を絞らせていただき、使用していることについてご理解いただきたい。
現在の業務の範疇で使用していく。将来性については、今後検討していくということでしょうか。	その通り。 ポイント バディコムの使用用途は慣れてから今後検討する！

3. サービス面が低下しない根拠を明らかにすること。

具体的には、エアセクション時の案内放送、他線区における輸送障害時の案内放送、

快速列車と各駅停車との待ち合わせ放送、駅社員との連絡方法、異常時放送(TIMS)放送の内容を明らかにすること。

【会社回答】南武線におけるワンマン運転の実施にあたり、線区の特情等を踏まえて、

サービスについて必要な対応は実施していく。

組 合	会 社
☆案内放送回数と内容の低下に伴うサービスレベル低下の懸念について	
案内放送の回数や内容が、現行の車掌に比べて下がるのではないかと危機感を持っているが、基本的に下げてはいけないと思っている。現実的に、回数や内容が下がるか下がらないか、会社の認識を示していただきたい。	自動放送等も配備をされている。その中で、 肉声放送も重要だということは我々も同じ考え である。運転士は運転に集中するが、 停車中や折り返し場面で適宜肉声放送を行ってご案内することで、サービスレベルは変わらないと認識している。
案内放送を運転士がやるのは当然だと思っているが、お客さまに対するサービスレベルが低下するのではないかとこのところの認識はどうか。	ワンマン運転に向けて、現行の自動放送をワンマン対応の自動放送に変える。 サービスレベルは変わらないと考えている。 本当に変わらないのか？
エアセクション内停車時では、運転士が作業しながらの異常時放送となり、お客さまのサービスの低下につながる。特に、パンタグラフ下げて密室空間であることで精神的不安を抱えるお客さまもいる。そこを、自動放送や指令間通話機能でカバーできるのか危惧している。	現場の不安は把握している。輻輳する作業をしている中で手順はあるが、適宜肉声放送を作業の間に入れていただきながら対応していただきたい。
他線区の輸送障害時、私鉄の乗り換え案内放送、迂回乗車案内等を実施しているが、ワンマン運転になってからの中でどのように考えているのか。できるかできないか、認識を示していただきたい。	お客さまの動線 からすると、まずは駅改札に入ると 異常時情報ディスプレイ で情報を知ることもある。また、 アプリ等 でも情報は得られる。さらに、 VIS画面 で遅れを文字化して情報発信している。様々なツールを選択できる時代でもある。そういうところで、 お客さま自身に情報収集をしていただく。 駅でも、電車が遅れていれば放送を強化していただく。 できる範囲で肉声放送にて案内していただく。

☆快速と各駅停車の待ち合わせ放送について

できる範囲とは、具体的にどういう場面を想像しているのか。	駅停車中に運転台設置のマイクにて肉声放送でご案内していただきたい。
快速と各駅停車の乗り換え案内についての考え方を示すこと。	「待避」の場合は、到着してドア開扉後に肉声放送でご案内していただく。「快速」の場合は、駅到着後に肉声放送するのも一つの考え方。 駅で事前に放送案内するのも一つの案。 ポスター等で周知していくのも一つの案。

3項の続きは次号④へ掲載します。